

# 健康と光線

発行所

〒153  
東京都目黒区目黒  
4-6-18

サナモア光線協会

年4回発行  
会費年500円  
電話 東京(03)  
3793-5281  
3712-5322

春よ来い、早く来い！

「春よ来い、早く来い、」という童謡を思い出しますが、誰もが待ち望んでいた春になりました。春は気分がうきうきします。「春とはそう言うものだ」と言えばそれまでですが、この気分の変化に太陽光線が大きく関わっています。

春になると日差しが強まり、日照時間が伸び、屋外で過ごす時間が長くなりますが、その折りに目から入った太陽の光が、人間の気分や精神状態を始め、様々な身体機能から妊娠率にまで影響するホルモンの値を変動させます。

## 太陽光とホルモンの相互作用

自然の照度の強い太陽光が目に入ると、内分泌系や自律神経系の指令塔の役目をしている脳の視床下部と呼ばれる部位に作

用して、脳の松果体と呼ぶ小さな内分泌腺が分泌しているメラトニンと言うホルモンの分泌量が減り血中濃度が低下します。反対に薄暗い環境ではメラトニンの分泌量が増し高い値をとります。

このように人間は自然の太陽光の明暗のサイクルに反応してメラトニンの分泌量を変動させ、光に関する情報を脳に伝え、身体の内環境を一定に保つ上で重要な役割を担っているホルモン全般や自律神経機能を日々のリズムや季節毎のリズムと同調させます。実際に明暗のリズムのはっきりした極地の女性の妊娠率は季節によって変動し、日照時間の長い時期にピークに達しますが、ここにもメラトニンが関わっているこ

## 太陽光線は人間の

### 気分を支配する

#### 季節性うつ病の光療法

サナモア中央診療所  
サナモア光線協会

医学博士

宇都宮

光明

分泌やその他の概日性リズムに影響を及ぼすためには、自然光のように遙かに強い光を必要とする。」と述べ、ウルトマン博士は、「我々は人工照明が健康に及ぼす悪影響を避けるには、多くの時間を屋外で過ごすようにし、かつカーテンや窓を開けて、自然の光を屋内に取り込むようにしなければならない。」と述べています。

#### 季節性うつ病と光療法

うつ病になると、意気消沈して理由もなく気分が沈み、ふさぎこんで、何ごとに対しても悲観的になります。中には少し快方に向かっている時に罪責感から自殺志向を強める人もいます。

このうつ病の特徴の一つに、憂鬱感が午前中に

ひどく、午後になると軽くなる事実がありますが、これをうつ病の日内変動と呼びます。また温帯や極地に於いて、うつ病だけでなく、そう病や自殺行為等の心の病に季節的なパターンのあることが知られています。特にこの傾向はうつ病で顕著に見られ、毎年のように冬の間は

この点についてレーウィ博士は、「物を見るには多量の光を必要としないが、メラトニンの

ずうとうつ病にかかるが、春になると治ってしまう、このように周期的にうつ病にかかる人がいます。これを、「季節性うつ病」と呼んでいます。何れの場合も、光が作る日内リズムや季節性リズムが関わっている可能性が示唆されています。このような患者に対し、レーウィ博士は春を早く作ることを考え、夜明けに3時間、日暮れに3時間、一日合計6時間、太陽光に準じた光を照射する光療法を試みました。その結果、うつ病は4日間で治り、その後も順調に推移したのです。これが現在広く行われるようになった季節性うつ病の光療法の切っ掛けになりました。

#### 春には屋外に

このように季節毎に変わる太陽の光によって、私達は予想した以上に様々な影響を受けていることが分かってきました。太陽の光の恩恵を全身で受けようと思うなら、屋外の自然の陽光の中にいるのが一番です。さすれば、メラトニンの生産が停止して気分がすっきりするだけでなく、冬の間、日差しが弱く、とかく屋内で暮らしたため、基底状態にあるビタミンDをも同時に補えます。





宇都宮義真撮影

「漁夫」



## 神の意志

太陽光線が我等の健康増進に絶対に必要な事は言を俟たず、到底薬物の比ではありません。併し晴天の日に於いても、都市部では上空に浮遊する無数の塵埃や煤煙が太陽光線の紫外線を吸収してしまい、昔日の様な完全な太陽光線は地上に達しなくなりしました。

その上、太陽光線の恩恵の下で生活し、生理機能を働かせていた人類は、宇宙創成以来の長い習慣を破って衣服を身に着け、太陽光線を遮るようになり、これが為に現今の如き虚弱な体質になってしまったのです。従って、改めて太陽光線に親しみ全身を照らすことによって、再び元の様な旺盛な生活機転を取り戻すようにしなければなりません。

これをなおざりにして、もしも抵抗力の衰えた身体に病魔が襲ったら、到底之れと一戦を交える体力が無く、脆くも人生の敗残者になるかも知れません。そうなくてはからではそれこそ大変です。

## 活力を高める

太陽光線は凡ての生物の生活機能を活発にし、代謝機能を亢進させます。血液の中の赤血球、色素素は増えますから貧血が改善します。白血球の細菌と闘う能力は強まり、免疫機能に關する物質も強くなりますから、あらゆる伝染性の疾患に罹りにくくなります。含水炭素や蛋白質の代謝作用は著しく亢進し、結合組織細胞の分裂が旺盛になりますから、新しい組織の再生を促します。骨の細胞も常に分裂増殖していますので、丈夫な骨を作るためにも、殊に発育期の青年男女は極力裸になって太陽光線の恩沢に浴すようにしなければなりません。

有り難いことには、この不思議な威力を持つ太陽光線は、我々の身体に有害に働くものに対しては、我々を保護する様に作用しています。色々な毒物は、光線に照らされると毒力を失い無毒化します。細菌が光線で殺菌されることは日光消毒で分かる通りですが、細菌の毒素は勿論蛇毒の様なものでさえも、光線に曝せば毒性を失います。これと同様な作用は身体の内でも認められます。

## サナモアは 地上の太陽

毎朝、太陽が漸く輝き始めた

## 殊に都市生活者には サナモアが必要

宇都宮 義真

け離れた生活を余儀なく繰り返している都市生活者に、真の健康を望む事は、そのまま放置するのなら、木によりて魚を求むるが如きものでありましよう。

併し科学の進歩せる今日では、太陽光線と同様な強力な光線を放射する機器を製造する事は然程困難ではありません。加えて、太陽光線のスペクトルが解析され、スペクトル別の作用が明らかにされ、より効率良く使用出来る様になりました。

サナモアこそ地上の太陽と称すべきもので、燦々たる其の光に浴する事は、恰も太陽光線の純粹なエキスを接する様なものですから、健康の保持、増進から、萬病に応用して無限の威力を発揮するものであります。而もサナモアは時間や天候に関わり無く簡単に応用できますので、都市生活者にとってこれ以上の味方はありません。

「光線」

昭和9年7月15日発行

殊に都市生活者には  
一人残らずサナモアが必要  
を引用した。

頃、日中でさえも電灯の灯りを要するビルディングや工場の中に吸い込まれ、夕刻、太陽が西方の屋根の間に没する頃になってやっと建物から吐き出される、来る日も来る日も太陽光線とか



# 最近の話題から

## 見舞い客もびっくり仰天

病院に軽い気持ちで病氣見舞いに行くと、病室の扉に入室する際の注意が仰々しく書いてあるのを見掛けるようになりまして。曰く、「病室に入る前に、ゴム手袋とマスクをして、入ったら靴をサンダルに履き替えてガウンを着ろ」、「病室を出る前に、ガウンを脱ぎゴム手袋とマスクを捨て手を洗い」、大体はそんな内容です。

なんでこんな風にな仰な目に会わなければならないのか、初めてならさぞかし戸惑われたことと思いますが、その原因がマース（MRSA・メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）です。ただ医師や看護婦の場合、手指や鼻腔から10%前後のマースが検出されることを考えると当然の注意義務でしょうが、見舞い客が仮に菌を持ち出して、他の病室に行かないならそこまでしなくてもと思いますが、事態はそれほどまでに深刻なのです。

## 黄色ブドウ球菌の特徴

抗生物質による治療が全盛を極めていた今日、ありふれた菌に過ぎない黄色ブドウ球菌がこれほど話題になり、人々を不安

に陥れたのは、この菌が手指、鼻腔、咽頭などに常在する常在菌で、健康な人には病原性を持ちませんが、抗生物質に対し極めて耐性化しやすく、一旦耐性を獲得すると常在していた感受性菌まで抗生物質の効かない耐性菌、言い換えればマースにして、抵抗力の衰えた患者で難治な感染症を起こすためです。

このマースの原因として、医師による抗生物質の使い過ぎ、特に第三世代セフェムと呼ばれる抗生物質

の野放図な使用や、静脈内留置カテーテルなどの医療行為が重要な原因になることが明らかにされました。むしろこの点が、諸外国に比べ、わが国でマース感染症が、術後患者を含め、多発した原因として重視されます。

なお細菌は様々な遺伝現象で耐性を獲得しますが、耐性菌の増加は病巣における抗生物質の濃度が不十分な場合および不必要に長期間投与した場合に著しいことが知られています。従って、耐性菌を防ぐ上で重要なことは、適切な抗生物質の使用です。即ち、病巣内抗生物質濃度

を細菌の発育阻止濃度以上にし、耐性菌が分裂増殖するのを阻止することです。また耐性菌には対策を講じやすいものと講じにくいものがありますが、黄色ブドウ球菌の耐性菌マースは対策を講じにくい多剤耐性球菌です。

## MRSA感染症

マースによる感染症は医療に従事する医師や看護婦から、入院している抵抗力の衰えた病人

## MRSAは医原病

医原病とは、医療行為によって生じたあらゆる弊害に対して用いられる言葉ですが、今般、マースについて、厚生省から「院内感染防止マニュアル」が発表されました。その基本的対策の第一として、抗生物質の乱用がマース多発の一因になったことを認め、「抗生物質の適正な使用」を挙げています。私の知るかぎりでも、抗生物質の乱

## マース(MRSA)の話

医学博士 宇都宮 光明

用は目に余ります。私とて、市中で肺炎（市中肺炎と呼ぶことがあ）にかかったとすれば、抗生物質を投与して欲しいと思うことは間違いありませんが、単なる風邪の場合、肺炎を予防するためと称して抗生物質を処方されたことはありません。まして薬価差益が大きいと言う理由で、第三世代セフェムを乱用したとしたら許されないことです。

ペニシリンが発見されて半世紀以上経過しましたが、この間、抗生物質が多大な貢献をしたことは周知の事実です。しかし一方において耐性菌が次々に出現

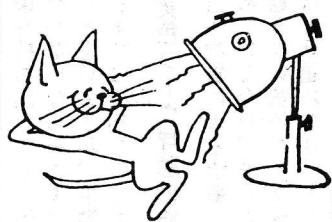
し、その対応策でメチシリンのような新しい抗生物質が作られたのですが、それにも耐性化したマースになったのです。そもそもメチシリンと言う抗生物質は、耐性黄色ブドウ球菌用ペニシリンとして開発された薬剤ですが、メチシリンにも耐性を獲得した多剤耐性菌マースは、本剤が作られて間もない一九六〇年代に、既にヨーロッパやアメリカの大学病院のような大病院で検出されていましたが、昨今、わが国においてMRSAの分離率が著しく増加し、死者も出たこともあって、冒頭に述べた事態を引き起こしたのです。

## MRSA対策は抵抗力

意外かも知れませんが、今でも死因の四位は老人性肺炎を中心にした感染症です。この事実が抗生物質と言えども抵抗力の衰えた人には効かないことを示しています。また医師や看護婦がマースにかからないことからも分かるように、抵抗力があれば感染症を防ぐことが出来ます。光線は黄色ブドウ球菌を殺菌しますし、昔から「日光浴をすれば風邪を引かない」と言いつたえられていることから明らかに、全ての感染症と闘う力を与えてくれます。抗生物質に勝るのが抵抗力であることを忘れてはなりません。



## ☆慢性腎炎



### —治療例報告—

症例 38歳 男性 会社員

症状 九年前に急性腎炎で入院

したが、退院後の経過は良好で元気に過ごしていた。ところが二年前の春に風邪を引いた後で、何となく気分が優れなくなり、身体がだるく、食欲がなく、そのうち顔や足にむくみが現れてきたので、医師の診断を受けたところ、慢性腎炎と診断された。当時、尿の出も悪く入院を覚悟したが、友人からサナモアの話聞き、光線療法を勧められて来所した。身長 170cm、体重 62kg。

療法経過 ABカーボンで、足裏20分、足首10分、膝10分、A

Dカーボンで、腹10分、側腹に左右から各5分、その後、一号集光器を使って、喉10分、後頭

部10分、それぞれ照射した。終了後、尿意を訴え、久振りに心地良い排尿感を覚えたといっていた。

当所で三回治療したが、尿の出が少しずつ良くなり、以後、自宅治療に移行した。一週間後に来所した時には、顔や足のむくみも目立たなくなっており、尿の出は一層良くなった。三週間後に見えた時には、食欲は殆ど元に戻り、疲労感も忘れたようになり、むくみも取れ、顔色がすっかり良くなった。

八ヶ月後に職場で検診を受けたが、尿蛋白は陰性で、それ以外にも異常は指摘されなかったという。その後も概ね月に一度は来所するが、体重は五キロ増

## ☆不妊症

症例 35歳 女性

症状 結婚して六年間、一度も妊娠しないので、あちこちの病院で診察を受け、不妊症の治療を受けたが妊娠しなかった。そんな折りに知人から体質改善には光線療法が良いと紹介されて来所した。

来所時、食欲がなく、顔は青白く、気力に乏しく、手足が冷たく夏でも寒がり、不眠を訴え

え、体調は良く、身体がしつかりしてきて、仕事に打ち込む多忙な日々を過している。

神戸市 ウエノ光線療研  
上野 健太郎氏報告  
TEL〇七七八—三三二—一三五八

## ☆骨折手術後の痛み (右大腿骨頸部骨折)

症例 68歳 女性

症状 孫の面倒を見ていて、孫が足元にまわりついて転んだ時に、孫を下敷にしないようにかばって無理な姿勢で転倒し、右大腿骨頸部骨折を起こした。

そのため数ヶ月間入院し、骨折部に金属釘を打ち込んで固定して退院したが、退院後、数十日も患部(右股関節部)に重

ていた。

療法経過 治療に際し、食事の好き嫌いをなくすこと、身体を冷やさないうこと、精神的にのんびりすること、その上で、毎日必ず光線療法を続けることを約束した。

治療はABカーボンで、同時に二台の治療器を使い、側臥位で、臀部10分、腰10分、膝10分、腹15分、足裏15分、背5分照射し、次に仰臥位で、左右の肩5分、左右の側腹部5分、左右の

## サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモアA、B、C、Dカーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法」をもとも愛用者各位の御信頼を頂き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことは、皆様方よくご存知の通りであります。

ところが他社製カーボンには「光線療法」をセッとしたり、サナモアA、B、C、Dと効果が同じという根拠もないような文句で互換表を添付して販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる行為をする者が何時の世にもいますが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任はもてませんので、どうかご注意ください。

(サナモアカーボンには、製造元イビデン株式会社の商標「B」のマークが必ずついています。)

東京光線療法研究所

苦しい痛みがあり、光線療法を希望して来所した。

療法経過 Aカーボンで基本照射を全身にしてから、患部をB

Cカーボンで、開放で、あるいは一号集光器を使用して、気持ちが良い間、熱く感じるまで照射したところ、患部の重苦しい痛みが和らいただけでなく、全身が何となく軽くなったとい

ていた。その際、患者が何日位通ったら良いかと尋ねたので、私は安心出来るまでと答えてお

いたが、それから続けて二週間来所してから数日間とぎれた。

その後、再度来所したが、この間、気分が良かったので病院を受診したら、この状態なら金属釘を抜いても良いといわれて抜いてきたといっていた。それから一週間ほど来所したが、患部の痛みもなくなり、益々良好な状態になったので、何かあったら来所することを約して治療を中断した。

川崎市 東京光線療研院  
海渡 一二三氏報告  
TEL〇四四—七二二—五〇六七

春日市 育美健康光線療研  
前田 ミサ氏報告  
TEL〇九二—五八一—二〇三九



# 痛みと光線療法

— 患者は真実を語る —

サナモア中央診療所 医学博士 宇都宮 光明

どうして痛むの？

痛みという感覚は、組織や器官を傷害する侵害刺激に対して起きる感覚であって、生体保護ないし警告の意味を持つ感覚ですが、誰しも嫌なものです。そのせいか、痛みは患者扱いされませんが、大半の痛みは生体の復元現象、あるいは防御現象の表れであり、目的現象と解される症状です。

炎症に伴う痛みを例に説明します。生体には、侵襲に満ちた環境の中を生き抜くために獲得した優れた防御システムが備わっていますが、炎症はその中の一つ

で、傷害を受けた組織や器官を修復する過程に不可欠なものです。即ち、傷害を受けた細胞や組織から、修復に必要な物質を血液から動員し易くする様々な化学物質が放出されます。これを引き起こす炎症に伴う一連の現象に

よって修復作業が進むのですが、起炎因子は同時に知覚神経を刺激して痛みを起こす発痛物質として作用します。このように痛みは治療機転と密接に結び付いています。

## 痛みの種類

痛みは発生部位から、皮膚や粘膜の痛む表在痛、皮下や関節や骨格筋や筋膜や腱や靱帯や骨膜や血管の痛む深部痛、内臓に原因があって痛む内臓痛に分けられますが、それぞれ痛みの成因、性質が異なります。また痛みの持続期間から、三週間以上続く慢性痛といい、それより短くと急性痛といえます。

表在痛は、全身の皮膚・粘膜に分布する痛点(平均一〇〇—二〇〇/cm<sup>2</sup>)と呼ばれる痛みを感じる侵害受容器で受けた感覚が、知覚神経を介して大脳皮質の知覚領野に達して痛覚を生じます。なおこの受容器は、痛みだけでなく圧や温度の感覚にも反応しますが、これらの刺激を感じる最低値の2倍以上になると痛みを起します。表在痛の特徴は、早く感じて早く消える刺すような痛みで、局所判別は正確です。

深部痛は、炎症、循環障害による酸素不足やそれに伴う中間物質の蓄積、組織の伸張、内

圧の上昇や下降のような圧変動、神経自体の障害などが原因になって、広汎性で局所判別の不良な、遅く感じてしかも経過の長い、灼けるような痛みです。

内臓そのものは、切っても、挫滅しても、熱を加えても痛みません。しかし、内臓の内腔の急激な拡張、内臓の平滑筋の伸張や収縮に伴う蠕動運動の異常、腸間膜の伸張、化学的・物理的な刺激、循環障害などで、深部痛に似た局所判別の不良な持続性の汎性の内臓痛を起します。なお内臓痛は、これまでに述べた痛みと異なり、刺激は自律神経によって脊髄に達し、脊髄で知覚神経や運動神経(体性神経といいますが)と接触して刺激を伝えます。このように自律神経と同じ脊髄分節に属する体性神経と連絡があるため、その体性神経が支配する領域の皮膚や筋に一定の規則性を持つ痛みや筋肉の収縮を起すことがあります。

即ち、内臓疾患の場合に障害器官の部位で感じる痛み以外に、障害器官から離れた皮膚や深部組織に関連痛・狭心症の場合に左胸部や左上腕内側が痛むを起したり、腹筋の強い反射性収縮—腹痛に伴って腹壁が硬くなる—を起します。

## 光線で痛みが消える？

光線を信じて熱心に使えば、痛みは必ず消えます。私は物心のつく前から、何処か痛ければそれが怪我ややけどのような表在痛でも、捻挫やひょう疽のような深部痛でも、腹痛のような内臓痛でも、光線をかければ痛みが消えると思っていました。そんなこともあって、光線で痛みが消える、と言うことは、私の原始体験と言っても良いものです。

このように光線療法の利点の一つは、どんな痛みでも和らげる鎮痛効果です。しかし光線療法の鎮痛効果を体験することなく信じる人はあまりありません。実際に鎮痛効果を体験した人から話を聞いても、大概の人は、「そんなことは信じられない」と言うでしょう。私の経験でも、光線療法を体験したことのない人に聞くと、一〇〇人が一〇〇人、否定的な答えしか返ってきませんが、体験した人に聞けば、一〇〇人が一〇〇人、肯定的な答えが返ってきます。この落差を生じるのは、痛みに効くのは薬しかないと思える医学教育や医療制度にあります。そのため病院で貰う鎮痛薬は、何故効くのか分からないのに無条件で信じています。

痛みという感覚は、当人でないと分からない感覚です。良くなったかどうかも当人でないと分かりません。英語に“Seeing is believing.”、と言う諺がありますが、直訳すると、見ることは信じて、となり、日本語の「百聞は一見に如かず」と同意語とされます。光線療法の鎮痛効果も試して見れば、“Seeing is believing.”で納得できます。

## 光線療法が効く理由は

どうして光線療法が痛みにも効くのか、その理由を知るよりも、どんな痛みにも試して見て体験を通して効果を納得して貰うのが一番の近道です。しかし体験した上で光線的作用機序を知れば一層安心して使えますので要点を述べておきます。

光線療法が痛みにも効く理由を知るには、どうして痛むかを知ることから始まります。例えば、炎症の際に患部では共通に認める所見は、組織の障害、循環障害、組織の再生です。この患部に光線を照射すると、主として赤外線が体内深部にまで透過し、そこを内部から温めます。一方、生体には体温を一定に保つ機能があり、そこを循環する血液やリンパ液を増やして局所



△五ページからつづく▽

的な体温の上昇を防ぐとうします。その結果、局所の循環障害を改善して治癒機転を促します。同時にむくみを軽減し、筋緊張を和らげ、老排物や発痛物質を排泄しますから、即効的な痛みを鎮めます。なお光線の代謝を活発にする効果は、組織の再生を早めますから治療期間を短縮します。内臓痛の場合、光線の温熱効果に加え、痛みのあるところに光線をかけることで自律神経機能を調整し、内臓痛を和らげ、機能を正常化します。

- 以下、光線療法が痛みによく主な作用をまとめますと、
- (1) 循環障害を改善する。
  - (2) 筋緊張をほぐす。
  - (3) 神経の作用を整える。
  - (4) 内臓機能を調整する。
  - (5) 組織の修復を促す。

このように光線療法の鎮痛効果は、生理機能を賦活して自然治癒力を促し、回復力を高めることにあり、単なる対症療法ではありません。しかし光線療法を痛みの治療に効果的に使うには若干のコツがあります。それは作用機序からいって、照射時間と鎮痛効果との間には相関関係が成り立つことです。即ち、病状の程度に応じて、与える光線のエネルギー量を増やすため、

長時間、頻回に照射しなければなりません。しかも照射量を増やしても副作用は心配ありませんので安心して使えます。

### 薬が効かない高令者の痛み

現在使われている大半の鎮痛薬、一般に非ステロイド系消炎鎮痛剤といわれる薬剤の作用機序は、起炎・発痛物質の合成抑制にあります。従って、原因が明らかで強い炎症反応を伴う急性の炎症では、鎮痛効果は比較的優れていますが、加齢に伴って何となく痛みだし、かつ治りにくく長い経過をとるが炎症反応の弱い痛み、特に高齢者の慢性痛の場合には余り効きません。反面、冒頭でも述べたように、炎症は傷害を修復する機転の副産物と考えられ、治癒を促す目的的な症状です。しかるに鎮痛薬による薬物療法は、この炎症反応を抑えることで単に痛みを止める対症療法です。ここでも自然治癒力がなおざりにされています。

その上、薬の使用が長引くため投与量が多くなり、効かないが故に副作用にもつながります。その内、最も注意しなければならぬのは、特に高齢者で見られる腎障害や肝障害で、時に極めて重篤な結果をもたらすことがあります。従って、治癒力に対して相対的に衰える高齢者の場合、鎮痛薬の適応と限界を知り、副作用について知ることは、却ってマイナスになることを防ぐためにも意味があります。

痛みの治療には色々ありますが、光線療法の鎮痛効果の作用機序は他の治療法と異なり、原因に作用して鎮痛効果を現します。特に加齢に伴って衰える治癒力を高めて無理なく痛みを和らげますから、薬の効きにくい慢性の深部痛は良い適応疾患になります。

### 多灯照射の薦め

光線療法は単に痛みを消すだけでなく、原因に作用して回復を促し、緩解、治癒に至る治療法です。この事実を信じて、効果が出るまで続けることが肝要です。この際、前に述べたように、一般的には病気が重いほど照射時間を長くしなければなりません。このような場合、数台の治療器を同時に使って照射することによって、比較的短時間で効果をあげることが出来ます。

サナモア中央診療所でも、リウマチのように罹病関節が全身各所にある激しく痛み、後遺症として関節の機能障害を伴うような症例で、数台の治療器を使う多灯照射を薦め、優れた効果を認めています。

サナモア



サナモア光線協会

趣意書

天地創造の昔から、真の光、即ち太陽光線は、私たちに限らない恩恵を与えています。サナモア光線療法は、この太陽光線の健康増進、疾病予防および治療効果を利用した治療法です。従って、目に見えないが可視光線だけでなく、目には見えないが無くしてはならない紫外線や赤外線を目的に応じて適切に放射しなければなりません。

このサナモア愛用者を以て、光線療法の研究を行うと共に、啓蒙、普及活動を行うためサナモア光線協会を設立しました。サナモア光線協会は、設立の趣旨に賛同戴いた会員にて構成し、季刊紙「健康と光線」を発行します。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

協会では、会員を募集しております。入会希望者は、左記宛御申込み下さい。

〒153 東京都目黒区目黒4-6-18

サナモア光線協会 TEL (03) 三七九三—五二八一  
三七一—五三三二

(本紙の無断転用を禁止します。)